



# 万国外科学会（ISS/SIC） 日本支部ニュース

News of Japanese Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会（ISS/SIC）日本支部  
〒213-8507 神奈川県川崎市高津区溝口3-8-3  
帝京大学医学部附属溝口病院外科  
TEL: 044-844-3333(内線3223) FAX: 044-844-3222  
発行者：山川達郎  
編集責任：万国外科学会（ISS/SIC）日本支部広報担当委員・村田宣夫(埼玉医大総合医療センター外科)  
E-mail: 03nmura@saitama-med.ac.jp  
印刷：株式会社dig TEL: 03-3551-3060  
年2回発行1995年4月創刊

## Grey Turner Memorial Lecture の由来



万国外科学会日本支部長  
(ISS/SIC, National Delegate, Japan)

**山川 達郎**

(帝京大学医学部名誉教授、  
帝京大学溝口病院外科客員教授)

昨年100周年を記念して、発祥の地、Brusselで開催された万国外科学会において、慶應義塾大学 北島政樹教授が本邦でははじめてのGrey Turner Memorial Lecturerの栄誉に浴し、“Progress in GI Cancer Management; Challenge in the 21st Century”と題してご講演になられ、その大任を果たされました（写真）。ご講演の内容とそこにあって、感じられた北島教授のお気持ちなどについては、本支部会ニュース第14号に、先生ご自身が書かれておりますので、ここでは触れませんが、この記念すべき講演を会場で拝聴する機会をえた数少ない日本人会員にとっては、その場に居合わせたことの幸運と万国外科学会日本支部会員であることに誇りをお感じになられたのではないでしょうか。また前回の万国外科学会は、日本の存在が極めて大きなものになってきたことを実際に身をもって感じることができた会でもあったかと思います。これはFormer PresidentとしてISS/SICに多大のご貢献をなされた出月康夫東京大学名誉教授ならびに現在のcouncilを務めになられておられる比企能樹北里大学名誉教授らの今までのご努力が今ようやく花開こうとしている結果であります。お二人の今までのご尽力は高く評価されるべきものであります。ここに、お二人のこれまでのご尽力に心からの敬意と感謝を表する次第であります。



北島教授（講演風景）

さて、Professor George Grey Turnerは、1887年にお生まれになり、1951年脳梗塞で亡くなられておられます。彼のお仕事の中で、殊に知られているのは、1933年、NewcastleのUniversity of Durham時代にLancetに掲載した食道がんに対しての食道切除術（pull-through法）成功例の報告です。これにより、H. M. King George VthとQueen Maryにより、時期をおなじくして開設されたHammersmith Hospital、Postgraduate Medical Schoolの初代教授として招聘されることになります。その後は、もっぱら教育と臨床研究に専念され、多大の業績をのこされました。また1935年には、ISS/SICの会員になられ、以降、ISS/SICの発展に献身的な働きをされてまいりました。ことに、第2次世界大戦終了後の最初の第12回の本会をLondonで開催するにあたっては、大いにご活躍になり、1949年、アメリカNew Orleansで開催された第13回ISS/SIC大会会長を務められました。1951年、前述したごとく、Professor Turnerは没しますが、奥様 Mrs. Alice Grey Turnerにより基金が設立され、その後2年に一人づつ、International Committee (executive committee) の推薦を得て、選出される慣わしが今日まで続いているわけあります。第1回目のGrey Turner lecturerには、Hammersmith Hospital時代の同僚、University of WalesのProfessor L. C. Rogersが、“Nine and Sixty Ways; The Life and Works of George Grey Turner”と題するMemorial Lectureをされています。この“Nine and Sixty Ways”という言葉は、Professor Turnerが好んで引用したRudyard Kiplingの詩の一説 “There are nine and sixty ways of constructing tribal lays, and every single one of them is right.”から選んだということですが、Roger教授の講演の中にある彼の残した数々の言葉、“Surgery leaves room for alternative procedures”, “The proper operation, even if clumsily performed, is much more

likely to be successful than the wrong operation however brilliantly executed”などと重ねあわせ考える時、慎重、着実をMottoに、日々の手術に望んでいた彼の姿を彷彿させるものがあるように思われます。

以下に、今までのGrey Turner Memorial lecturerのお名前を列挙いたしますが、アジアでは3人目、日本人としては初めて北島教授がその栄誉に浴しました（表）。今後、日本支部会は、いよいよ万国外科学会の中でも、大きな存在になりつつあることは明白です。日本の外科医がもっともっとISS/SICを踏み台にして、世界にはばたいていって欲しいと念願すると同時に、それをささえるのが日本支部会の使命でもあると考えています。先生方にはこれからもISS/SIC日本支部会のためにご指導ご支援のほどをお願い申しあげます。

### 参考論文：

- 1) Rogers LC. Nine and Sixty Ways; The life and work of George Grey Turner. Bulletin de la societe internationale de chirurgie. No. 5-6, 501-519, 1961
- 2) ISS/SIC . A Century of International Progredition in Surgery. Kaden Verlag, Heidelberg, Germany, 2001

## 万国外科学会記念講演者

### Lecturers and topics of the Grey Turner Memorial Lecture

Year	Place	Lecture/ Topic
1961	Dublin	L.C.Rogers, Cardiff, United Kingdom Nine and sixty ways. The life and work of George Grey Turner
1963	Rome	Ph. Sandblom, Lund, Sweden Biliary tract hemorrhage (hemobilia)
1965	Philadelphia	J.E. Dunphy, San Francisco, USA Cancer of the colon and rectum. A thirty-years perspective
1967	Vienna	Sir Thomas Holmes Sellors, London, United Kingdom Surgery of the oesophagus
1969	Buenos Aires	A. Ochsner, New Orleans, USA Tribute to Professor George Grey Turner: Surgical treatment of peptic ulcer
1971	Moscow	F. Linder, Heidelberg, Germany Surgical treatment of arterial hypertension
1973	Barcelona	R. H. Franklin, London, United Kingdom Grey Turner and the surgery of the oesophagus
1975	Edinburgh	Sir Donald Douglas, Dundee, United Kingdom Hospital design-The ideal and the reality
1977	Kyoto	Sir Richard Doll, Oxford, United Kingdom Geographical variations in cancer.
1979	San Francisco	Elston Grey Turner Jr, London, United Kingdom This material age is beginning to realize that there was some good in the past-George Grey Turner,
1981	Montreux	Mrs. Lesley Rees, London, United Kingdom Control of pain.
1983	Hamburg	G.B. Ong, Hong Kong Carcinoma of the esophagus
1985	Paris	Ch. Du Bost, Paris, France Cardiomyopathy
1987	Sydney	T.E. Starzl, Pittsburgh, USA Organ transplantation
1989	Toronto	W.J. Rudowski, Warsaw, Poland Haemostasis and blood replacement: state of the art 1990
1991	Stockholm	B. Samuelsson, Stockholm, Sweden Prostaglandins and leucotriens: role in health and disease
1993	Hong Kong	Sir Peter J. Morris, Oxford, United Kingdom Organ transplantation : the present and the future
1995	Lisbon	Ch. Herfarth, Heidelberg, Germany Science- the driving force for the continuous advancement of surgery
1997	Acapulco	A.K.C. Li, Hong Kong The changing role of the liver surgeon
1999	Vienna	U. Veronesi, Milano, Italy The surgical management of breast cancer
2001	Brussel	Masaki Kitajima, Tokyo Japan Progress in GI Cancer Management; Challenge in the 21st Century

## 万国外科学会理事会報告

**ISS/SIC理事  
(北里大学名誉教授)  
比企 能樹**



本年の理事会はACSの開かれるSan Franciscoにおいて、10月6日の早朝より夕刻までの1日開かれた。これに先だって本年3月8日に、Reduced ISS/SIC Executive Committee (EC) Meetingが、President, President elect, Secretary General, Treasurer, スイス本部のAdministrative Office Stuffsが出席し行われた。この会合は、今回の10月の理事会で議事が敏感かつ円滑に進むように、事前準備のため、会長が招集したことであった。

こうした経緯で開かれた10月の理事会では、先ずSir Peter Morris会長はじめ殆どの理事の出席と、Integrated Societiesの会長であるIASMENの岡田正会長、IAESの野口志郎会長も出席された。議題は盛り沢山であったが、ここにかいつまんで紹介する。

まず会長より、長年の当学会への貢献を称えて、名誉会員への推挙が行われ、これにはわが国から推薦した元会長を勤められた出月康夫教授が、そしてもう一人、元ドイツ外科学会会長で本学会に多くの貢献をされたProf. Ch. Herfartのお二人が今回の理事会で目出度く推挙された。次に北島政樹教授が、ISS/SICのベルギーにおける100年記念大会においてGrey Turner記念講演を行った功績により、2005年より2007年の会長に、満場一致で推挙された。いずれの推挙も、次回バンコックにおける総会にて正式に決定される。

当学会の会長制度はいささか複雑で、会長は二種類ある。すなわちISS/SICのSocietyとしての会長と、学会（ISW）を開催し実行するLocal Presidentという形の所謂当番会長が存在するが、今回北島教授が推挙を受けたのは、出月教授と同じく、前者の当学会全体を統括する会長である。更にわが国では、1977年京都以来当学会開催がなされていないので、やがては日本人のlocal presidentが切望される。

庶務報告で、日本からの新入会員12名は世界のトップ、Active memberの

**特別寄稿  
国際学会についての雑感**  
九州大学大学院医学研究院  
災害救急医学教授  
**橋爪 誠**



私が初めて国際学会に出席し発表させて頂いたのは、卒業して5年目、アムステルダムで開催されたCICDの国際学会でした。演題は、私の学位のテーマである「肝硬変症における胃壁微小循環の臨床病理学的研究」でした。英語でのスライドの準備、発表原稿の作成、予想される質問への対策など、すべてが始めてで準備が大変でした。しかし、意外に発表は何事もなく無事に終わり、多くの助言を頂いた先輩に心から感謝したものです。学会終了後は、幸いなことに、仲間3人とイタリア、スイス、フランス、イギリスを短期間で観光して帰ることができました。国際学会最初の発表でありながら思い出すのは、学会での発表ではなく、スイスの山頂での眼前に繰り広げられたあの雄大な氷河の風景や、古代ローマの遺跡、エッフェル塔等々です。

最初の国際学会で良い思い出を作ることができましたので、国際学会とは、いいものだという思いがずっとあったのですが、教授交代により、「国際学会での発表よりも、英語論文を先に出す方が大切である」と教えられ、以後、九州大学第二外科からはなかなか国際学会へ出席することは難しくなりました。英語論文の発表なくして国際学会へ出席するなど口が裂けても言えない状況が未だに続いている。

最近では、門脈圧亢進症関連だけでなく、内視鏡外科手術関連や、ロボット手術関連で国際学会にて発表する機会が増えて参りましたが、若い諸君の将来にとって英語論文での業績と、国際学会出席の経験とどちらに意義があるのか考えることができます。国際学会の内容と日本の学会とを比べますと日本の学会の方が遙かに質の高い発表が多く見受けられます。高い参加費と、旅費を出してまで国際学会に参加しても、内容に乏しく、さらに語学の問題で内容が理解できないようであればもっと意味がありません。物見遊山で終わるのが関の山でしょう。しっかりとした研究を日本で行い、英語論文にして発表した後に国際学会で認めて貰うために発表するという方が、発表に迫力も出ますし、高名な先生方と話をするチャンスも増ええると考えます。

国際学会でも、展示のブースは、わが国の展示に比べて、充実した内容であることが多いようです。新しい医療機器の紹介が多く見られ、学会参加者もあめ玉やワインを片手に、真剣に見て回っています。業者の方も名

会費納入者230名は米国の472名に次ぐ。Senior member (15年以上)はわが国では19人、8%で、各国の平均比率26%を考える時、有資格の会員諸氏は進んでスイス本部に申請をして頂き、その折にお忘れなく新しい会員の推薦をして戴くと、次代に繋がると確信する。

学会誌World J. Surg.の編集報告では、当雑誌のIFは1.644であり、世界の外科系雑誌中36位、1998年の2.271に比べやや落ちたが1993年の1.171に比べると上昇している。

財務報告で、当学会は過去10年間にわたり会費120\$が据え置かれていたが、雑誌の編集費用をはじめ運営のための全体の財務状況を鑑み、10\$の値上げ実施は止むを得ないであろうとの意見が出され、バンコックの総会で決議される。また、ISS-foundationの報告で、寄付者の名簿の発表があり、2000年には日本から48名の協力があった。

第40回ISW'03は、2003年8月24—28日タイのバンコックで開催される。Abstractの〆切りは、本年の12月13日なので、同じアジアでの開催にわが会員諸公も振るって応募をして頂きたい。以降の学会ISW開催に関しては、2005年の8月21日—25日までダーバン、その後の2007年モントリオールでは、既に決められている。ニュースレター9月号 (pp.4-5) でご覧のごとく、更に2009年豪州のアデレードは未だ決定ではなく、バンコクの総会出席者各位の意向を参考にすることであった。

ダーバンの開催に関しては決定されているものの、前回ブリュッセルの理事会でも発言したことであるが、重ねて日本側として以下のように発言した。すなわち、わが国外務省がインターネット上に海外危険情報を公開しており、それにはダーバンは「注意喚起区域」となっており、従来のような多数の日本人参加は期待出来ないこと、さらに日本からの交通の便が不自由であることを表明した。これに対し、南アの役員から学会会場周辺は全く心配無く安全であり、危険地域は限られた場所のみを指しているので、安心して参加して欲しいとの発言があった。

いずれにせよ、上記の各議事の決定はバンコックにおける総会で決議される。従って会員諸氏におかれでは、8月27日(水)14:00より行われる総会に振るって参加し、Future Congressに関する意見を含め、日本側の意向をしっかりと反映して頂きたいとお願いする。

刺交換と売り込みに必死です。

万国外科学会を主催されておられる日本の諸先輩方にご叱責を頂戴するかもしれません、今後の国際学会に望むところを、以下に列挙します。

- 1) 若い諸君が、高いお金を支払っても出席するだけの価値ある内容である事。
- 2) 先日松本で開催された日本脳外科学会のように発表形式に工夫が凝らされている事。学会参加者の意見を広く取り入れ、学会運営を積極的に改善していく事。
- 3) 学術展示や医療機器などの展示を充実させる事。展示内容を参加者が短時間にレビューできるシステムを取り入れる事。
- 4) プログラムが重なることで、見たい、聞きたい演題を見逃すことがないようにし、参加者に損した気分を与えない事。
- 5) 観光名所で開催するか、でなければアクセスや宿泊施設が整った大都会で定期的に開催する事。



ギリシャでの学会に出席して：地中海をバックに撮影

## プロトンポンプ・インヒビター

指定医薬品

**タケプロン®**  
カプセル15・30  
(ランソプラゾールカプセル)

■効能・効果、用法・用量、禁忌・使用上の注意および取扱い上の注意等については、添付文書をご参照ください。

■薬価基準：収載

**Takepron®**

△ 武田薬品工業株式会社  
〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号

9509

# 第13回 万国外科学会 日本支部議事録

日 時: 2002年4月12日(金) 午前7時30分~8時30分  
会 場: 京都国際会館小会議室554

出席者: 28名(会員) + 3名(下記Guest)

青木照明、阿部令彦、石川正昭、出月康夫、臼杵尚志、沖永功太、柿田 章、上西紀夫、北野正剛、小暮洋暉、白日高歩、菅原克彦、鈴木真一、砂川正勝、高見 博、田尻 孝、中村 達、林 四郎、松本純夫、松本由朗、真船健一、村尾佳則、村田宣夫、宇山一朗、斎藤和好、酒井 滋、宮島伸宜、山川達郎(五十音順、敬称略)

## 議 事

会長挨拶

前回のreview

## 庶務報告

会員数 297名

2001年決算報告(下段参照)

2002年予算案(下段参照)

共に承認

Small lecture Professor Goran Akerstrom

日本支部ニュース14号発行

Guest Professor Goran Akerstrom Secretary/Treasurer, IAES

Professor J. Rüdiger Siewert President-elect, ISS/SIC

Professor Sheung-Tat Fan International Committee Hong Kong

## 2001年収支決算書(2001年1月1日~12月31日)

	予算額	決算額	備考
I 収入の部			
会費	1,350,000	493,000	他に日本支部運営費として8711.00us\$
広告掲載料	200,000	250,000	
雑収入	0	30,500	
利息	0	790	
当期合計	1,550,000	774,290	他に8711.00us\$(下記)
前年繰越金	1,503,558	1,503,558	
収入合計	3,053,558	2,277,848	他に8711.00us\$(下記)
II 支出の部			
会議費	200,000	78,604	2回分
通信費	300,000	120,975	
印刷費	500,000	428,190	ニースレター:2回発行
文具費	50,000	5,806	
交通費	50,000	33,780	事務員出張旅費
人件費	150,000	140,399	
他誌広告費	100,000	20,120	
謝礼	0	140,210	原稿執筆謝恩書カード83,000×3枚作製
本部寄付	125,000	121,400	
雑費	10,000	2,085	
予備費	150,000	0	
会費送金(本部宛)	0	331,860	
支出合計	1,635,000	1,423,429	
収支差額	1,418,558	854,419	他に8711.00us\$(下記)
2002年 繰越金	1,418,558	854,419	他に8711.00us\$(下記)
予算額	決算額	備考	
収入の部	0.00us\$	8711.00us\$	本部から日本支部運営費入金(会員経費手数料引後金額)
支出の部	0.00us\$	0.00us\$	
繰越金	8711.00us\$	8711.00us\$	2002.1.7現在

ISS/SIC 万国外科学会日本支部

監事 馬場正三  
監事 中村雅夫

## 会員動向(2002.4)

会員数 297名

内訳 アクティブメンバー 276名  
シニアメンバー 20名  
名誉メンバー 1名

## 入会(入会順)

- 1. 三浦 大周 虎の門病院
- 2. 白石 憲男 大分医科大学第一外科
- 3. 宇山 一朗 藤田保健衛生大学消化器外科

## シニアメンバー移行(移行順)

- 1. 林 四郎 東京都
- 2. 駿河 敬次郎 順天堂大学八重洲メディカルセンター
- 3. 城所 伸 東京都
- 4. 掛川 晉夫 久留米大学第一外科
- 5. 長田 栄一 大阪府
- 6. 高井 新一郎 大阪大学外科
- 7. 信田 重光 東京都(申請中)

## 支部活動報告

2001.10.11 第12回万国外科学会  
(ISS/SIC) 日本支部総会  
(於: パシフィコ横浜)

2001.10 万国外科学会(ISS/SIC)  
日本支部ニュース第13号発行

## 2002年 予算案(2002年1月1日~12月31日)

	予算額(円)	(US\$)
1 収入の部		
会費	200,000	8700.00
広告	854,419	8711.00
前年繰越金		
収入合計	1,054,419	17,411.00
2 支出の部		
会議費	200,000	日本支部総会開催(2回)
通信費	300,000	ニュースレター
印刷費	500,000	事務員出張旅費
文具費	50,000	万国外科学会開催案内
交通費	50,000	
人件費	150,000	
他誌広告費	100,000	
本部寄付	10,000	
雑費	150,000	
備費	150,000	
支出合計	1,510,000	1,000.00
当期収支差額	△455,581	16,411.00 (1\$=130円 として 2,133,430円)
2003年 繰越金		1,677,849円

## バンコックの学会のお知らせ

40TH WORLD CONGRESS OF SURGERY  
INTERNATIONAL SURGICAL WEEK ISW03

in Bangkok, August 24 to 28, 2003

organized by the

INTERNATIONAL SOCIETY OF SURGERY ISS/SIC  
and its Integrated Societies - IAES, IATSC, IASMEM & BSI

CONGRESS PRESIDENT  
J. Rüdiger Siewert, Munich, Germany

### IMPORTANT DATES

Deadline for the submission of Abstracts  
December 13, 2002

Deadline for Early Registration  
January 31, 2003

Deadline for Registration at Normal Rate & Hotel Reservation

### お知らせ:

次回、ISWは、Bangkok, Thailandにおいて上記のような日程で開催されます。奮ってご参加くださいますようお願いいたします。ISS/SIC 日本支部会としては、会員の先生方の中から司会者候補を推薦しています。今回も、プログラム委員長局に、多数の先生方をご推薦申しあげました。以下に示す文章は、Mr. Chris Storz, Program Coordinator ISW03からの返事です。多くの先生方がご指名を受けられてご出席くださることを期待しています。

Thank you for your e-mail and list of potential participants at ISW03 in Bangkok, Thailand, which has been very much appreciated. (中略) We always try to include a great number of Japanese surgeons, however, this depends also in the Programs established by the various Integrated and Participating Societies which organize their programs independently. (中略) With the actual standing I count totally some 316 commitments at ISW03 (not calculating the Free Paper, Poster and Video Sessions) of which 33 (more than 10%) are covered by Japanese surgeons. Of course, we will try to include also several Japanese surgeons as moderators of Free Paper, Poster and Video Sessions.

I hope this information is to your approval.

Up-dated information at : [www.iss-sic.ch](http://www.iss-sic.ch)



### ●急性肺炎

### ●慢性再発性肺炎の急性増悪期

### ●術後の急性肺炎

### ●汎発性血管内血液凝固症(DIC)

## 注射用エフオーワイ®

注射用メチルセラゲベキサート

● 効能・効果 ①蛋白分解酵素トリプシン、カリクレイン、プラスミン等  
活性解消下止血疾患  
急性再発性肺炎の急性増悪期  
②汎発性血管内血液凝固症

③出血性膀胱炎

④消化器系疾患

⑤外傷性休克

⑥心筋梗塞

⑦心筋梗塞

⑧心筋梗塞

⑨心筋梗塞

⑩心筋梗塞

⑪心筋梗塞

⑫心筋梗塞

⑬心筋梗塞

⑭心筋梗塞

⑮心筋梗塞

⑯心筋梗塞

⑰心筋梗塞

⑱心筋梗塞

⑲心筋梗塞

⑳心筋梗塞

㉑心筋梗塞

㉒心筋梗塞

㉓心筋梗塞

㉔心筋梗塞

㉕心筋梗塞

㉖心筋梗塞

㉗心筋梗塞

㉘心筋梗塞

㉙心筋梗塞

㉚心筋梗塞

㉛心筋梗塞

㉜心筋梗塞

㉝心筋梗塞

㉞心筋梗塞

㉟心筋梗塞

**特別寄稿****万国外科学会に  
参加して**

(東京通信病院 第1外科 部長)

**関川敬義**

私の国際学会の経験は、山梨医科大学に発足当初から在籍し、初代の菅原克彦教授に誘われて、1986年サンパウロでの世界消化器病学会が最初であった。たまたま、AFP産生胃癌のデータを、oralで発表させていただいた。当時からしっかりした討論が出来ずに終わり、恥ずかしい状態であったため、次回は何とかしようと心に誓ったのであるが、一向に進歩がない。しかし、現在の若い先生方はしっかりした英語力もあり、是非とも日本の立派なデータを海外に向かって発信していただきたい。海外の学会もたくさんあるが、サンパウロで、武藤徹一郎前教授（現癌研附属病院院長）にお会いし、一つの国際学会を選択して、継続して発表するようにアドバイスを受け、以後伝統のあるこの万国外科学会をその一つに決めた。本学会は1902年に発足した100年の歴史ある国際学会で、日本外科学会のように、広く一般外科を包括し、各分野の国際的に著明な先生の御講演を聴講でき、同じ専門領域の海外の先生方とも交流できることである。

万国外科学会には、1989年第33回のトロントでの学会からで、以後1991年第34回のストックホルム、1999年第38回のウイーン、そして昨年の第39回のブリュッセルに参加した。途中他の国際学会のため参加できないこともあったが、内容的にも価値ある学会とあらためて認識し、今後も努めて若い先生方も参加を呼びかけていきたいと思っている。

参加するからには一つでも発表しなければ意味がないと考え、興味あるテーマを選択してoralに必ず応募した。Acceptされた通知を受け取ると喜んだものであるが、最近はその率が上昇したそうで、内容をよく吟味して応募すればまず大丈夫ではないだろうか。発表のために、長い時間をかけて、準備するが、これも楽しい作業のひとつである。関連する文献を渉猟し、何とかdiscussionできるように準備をしても、必ずしも準備したようにいかないこともあります。反省する事が多い。やはり、日頃から英文に親しむ必要があると思いながら帰るのであるが、大体長く続かず、今日に至っている。



城砦の下に広がるディナンの街並みとノートルダム寺院

昨年のブリュッセルでの学会については、すでに詳細な御報告がなされているので、もう一つの楽しみである、その国の旅についてお話をさせていただきます。私も一部の先生同様、旅を好み、写真を撮りながら、その国の歴史や文化を垣間見、時には同じ所に数日間滞在し、その現地のツアーに参加したり、レンタカーを借りて田舎道を走るようにしていた。今回も日本で予定を立て、ロードマップも手に入れ、準備万端整えたつもりであったが、やはり失敗はつきもの、小型のルノーであったが、なんとオートマチックではなく、フロアーシフトのタイプであった。あわてて事務所に引き返して、交渉したが、変更は出来ないとのことであった。この点は日本で確認しておかなかったことと、ヨーロッパで別の国際学会でレンタカーを借りた時は、BMWのオートマチックであったため楽観していたのが失敗のもとであった。以上のようなわけで、やむなくこれに乗り込んだ。何回かエンストもあったが、ベルギー東南部にひろがるアルデンヌ高原の念願の古城めぐりに出発した。混雑した市街区を抜け、一路東に進路をとり、最初のコロワ・ル・シャトー城に着いた。誰一人いなく、見学が出来るのかどうか心配していた矢先、城の中に入ると、2階の窓から老婦人に制止され、今日は見学は出来ないとのこと。まだ普通の住まいとして活用されて

いるとのことであったため、外観のみ撮影して次の城を目指した。道路の標識がわかりづらく、地図に出ていない地名がでてきたりして、アメリカやドイツよりわかりづらかった。しかしあとは田舎道ゆえ車も少なく、広々とした田園風景の中を快適に走ることができた。更にアンヌボワ城、フレイエル城、ヴェーヴ城、スponタン城と5つの古城を見学した。特にヴェーヴ城は、フランス国境に近い田舎にあり、城内の説明は若い女の子がフランス語で説明してくれた。我々日本人には日本語の解説書が渡されたのには驚いた。こんな山奥の古城に日本からの観光客が来るとは思いもよらなかった。なぜなら、ここに来るまで大分苦労したからである。ただこのヴェーヴ城は12世紀に建てられており、現在の皇太子殿下が来城された時の写真が飾られていたことから、由緒ある古城と思われた。アルデンヌ高原にはナミュール、ディナンの11・12世紀からの古都があり、古城めぐりの拠点となっている。ここにディナンはムーズ川沿いに発展した銅細工で栄えた都市で、断崖の上に作られた城砦が有名で、落ち着いた、静かな街であった。ブリュッセルには高速道路で帰途についた。国際学会の一つの楽しみである。

次回の万国外科学会はバンコクで開かれますが、演題締切りの12月がいよいよ近づいてまいりました。東南アジアでの開催はまずしばらくはないかと思います。多くの先生方が参加されることを祈っております。



ヴェーヴ城

## 編集 後記

◆来年夏の万国外科学会Surgical Week はタイのバンコクで開催されます。タイにつきましてはご存知の先生方も多いと思いますが、簡単に紹介しておきます。日本には春夏秋冬の四季がありますが、熱帯にあるタイにはそのような季節の移り変わりはありません。1年は雨期、乾期、暑期の3つに分けられます。雨期は5月中頃から10月まで続き、Surgical Weekの行われる8月はちょうどその真只中です。ただし気温は5、6月に比べ、8月には低くなります。激しいスコールの合間に快適な時間があり、町歩きができるようです。◆宿泊施設についてはバンコクは観光都市でもあり、さまざまなグレードのホテルが数多くあります。ただしホテル料金については同じホテルでも予約ルートによって料金がかなり異なることに注意が必要です。インターネットにある宿泊者の体験話を見ましても3割くらいの価格差はあるようです。なぜかは知りません。いくつか調べてから予約されるのが賢明だと思います。◆交通事情は以前に比べずいぶんとよくなりました。BTS（スカイトレイン）という高架式の鉄道ができてその路線の周囲に出かけるのは大変便利になりました。この鉄道は会場のBITEC方向に向かっているようですが、現在BITECまでは通じておらず、バスかタクシーで行かざるをえません。時に大渋滞もあり、発表の日は時間に余裕を持ってホテルを出る方がいいでしょう。◆万国外科学会がアジアで開催されるのは香港以来10年ぶりです。世界中から医師が集まるのですが、アジアの医師が大勢集まります。アジアで行われる国際学会で研究成果・臨床経験を発表することは意義あることだと思います。講演の演壇上でアジアの医師に我々の仕事をアピールし、友人を作り、会場内外でアジアの外科医と交流を深めたいものです。◆今回のニュース15号には関川先生と橋爪先生に特別寄稿を書いていただきました。両先生とも国際学会の楽しみを述べられるとともに、学会参加が単なる観光旅行に終わらず有意義な学会出席になることの重要性を述べられています。国際学会は見聞を広めるひとつの大きな機会です。海外の医師の研究と外国の文化を同時に知ることのできる滅多にない機会です。それを心得て出席したいと思います。橋爪先生からは日本支部が万国外科学会を魅力ある国際学会にするよう努力することが提言されています。この提言に反対する人は誰もいないでしょう。何であれ、心がけが大切です。難しいかも知れませんが、皆で努力していくなくてはなりません。（村田宣夫）

多価・酵素阻害剤 指定医薬品、要指定医薬品 MIRACLID Inj. 25,000/50,000/100,000単位 一般名：ウリナスタチン 健保適用

※「効能・効果」「用法・用量」「使用上の注意」等については添付文書をご参照下さい。  
資料請求先 持田製薬株式会社 東京都新宿区四谷1丁目7番地 電話(03)3358-7211(代) 〒160-8515